



幸前 信雄 議員

「介護施策」・「財政指標」について

問 「予防介護」「軽度の方」「重度の方」を対象とする、介護施策は。

答 高浜市が今後も、力を入れていく事業は、予防事業があり、「いきいき健康マイレージ事業」「介護予防拠点施設事業」「健康教室」「生きがい教室」などが介護予防事業として挙げられる。要介護状態に陥りそうな方には、「お達者問診票」を用い、保健師が早期に訪問し、介護予防事業への参加を促している。要支援の方には、地域包括医療センターが中心となり、介護予防ケアプランを作成し、自立した生活を続けるための支援を行っている。重度の要介護認定者の方には、居宅介護支援事業などを実施。

問 将来の介護の姿と効果の検証並びに、事業見直しのタイミングは。

答 介護予防施策の効果の検証の数値による可視化は難しく具体的な数値は表しにくい。事業の見直しのタイミングは、現在実施している事業の課題に対し総合的に取り組み、包括的な事業として「生涯現役のまちづくり事業」が挙げられる。

問 団塊の世代の方が、介護を必要とする時になるとどうなるのか。

答 現在75歳以上の方の内、29・5%の方が要介護認定されており、団塊の世代の方が、75歳以上を迎えると、要介護認定者が40%増加すると見込んでいる。

問 平成26年度予算(案)をそのまま執行すると財政指標はどうなるか。

答 財政力指数が、「0・98」、経常収支比率が、「89・8%」、実質公債費比率「2・5%」を見込んでいる。

問 昨年中期中期財政計画が示されなかった理由は。

答 国・県の動向や「公共施設保全計画」の内容を反映したものとするため、公表の時期を變更。



小野田由紀子 議員

生涯を通じた健康づくりの推進と子育て支援について

女性の健康維持、更年期を健やかに過ごすための支援

問 女性が、更年期を健やかに過ごしていただけのような情報提供や講座を開催しては。

答 商工会婦人部からの依頼で、3月に保健師が出向き女性ホルモンや更年期についての説明を行わせていただく。今後は、健康づくり推進委員の研修会の中で、更年期について保健師からお話させていただく機会をつくっていくなど、こうした機会を増やすとともに、更年期への対応についての普及啓発に努めていきたい。

ロコモティブシンドローム(運動器症候群)対策について

問 ロコモティブは、骨や関節、筋肉、神経など、体を動かす組

織全てを指す運動器のことで、それがうまく機能しなくなったことをロコモティブシンドロームといいます。知名度が低く、今後、普及啓発に努めていく考えは。

答 介護予防教室においても、足の筋力を鍛える運動を事業に取り入れるなど、ロコモティブシンドロームを視点に置いた取り組みを行っており、引き続き普及啓発を含めた取り組みを行っていききたい。

産後ケア事業の推進について

問 産後直後の母子の心身をサポートする「産後ケア」について前向きに取り組んでいただきたい。

答 「マイ保健師」が支援の中心となり、国の地域少子化対策強化事業のモデル事業として進めていきたい。

病児保育の開設について

問 病児回復期に至っていないお子さんを預かる病児保育についての考えは。

答 市単独で病児保育まで拡大したとしても、需要が見込めないことから、病児保育を実施していく考えはありません。